

①尾側口内炎(歯肉口内炎) (猫)

症例: 推定9歳(2007年8月)、去勢雄、FIV(+)、5.3kg

診断: 尾側口内炎(歯肉口内炎)

症状: 重度の歯肉炎、疼痛、流涎、出血、口臭等

検査: 身体検査、血液検査については特記すべき事項なし。

ADSC治療目的: 全顎抜歯でもコントロールできないFIV(+)**猫**に対しての症例管理

ADSC投与間隔

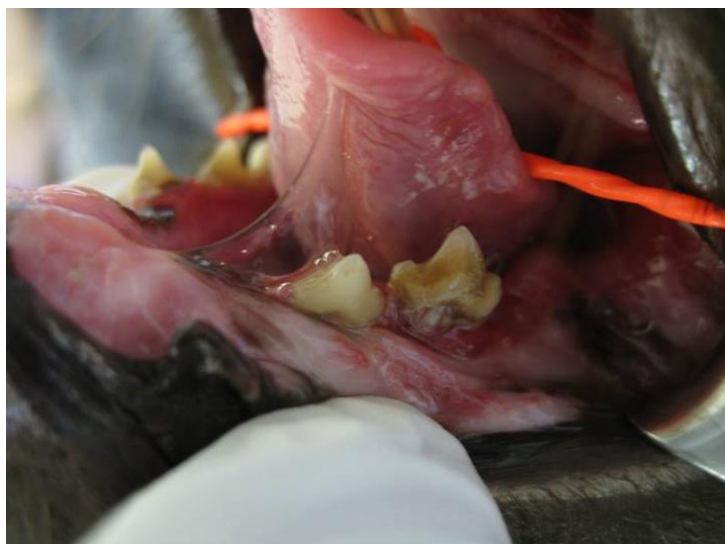
	投与 間隔		投与 細胞数		投与 間隔		投与 細胞数
①		他家A	3×10^6	⑨	16日	他家D	5.2×10^6
②	8日	他家A	3×10^6	⑩	14日	他家D	5.2×10^6
③	11日	他家A	3×10^6	⑪	17日	他家C	4.4×10^6
④	20日	他家B	4×10^6	⑫	15日	他家C	4.4×10^6
⑤	15日	他家B	4×10^6	⑬	21日	* 自己	5×10^6
⑥	16日	他家C	4×10^6	⑭	30日	他家D	5.2×10^6
⑦	18日	他家C	4.4×10^6	⑮	47日	* 自己	5×10^6
⑧	17日	他家C	4.4×10^6	⑯	30日	他家E	3×10^6

投与方法: IV

経過

- ・2011/11 歯牙吸収病巣による歯肉炎と診断。舌潰瘍(+)
- ・2011/12 精査および一部の臼歯抜歯→歯肉炎(↓)
- ・2011/3 流涎(+)**口内炎(+)**疼痛(-)。抗生物質、ステロイド
- ・2011/12 口腔内精査および一部の臼歯抜歯→経過良好
- ・2012/1 全臼歯抜歯
- ・2012/3 流涎(+)**口内炎(+)**舌潰瘍(+)
デンタルバイオ、インターキャット、インターベリーαなどにより治療を試みるも口周囲を触らせないため投薬困難
悪化時にステロイドおよび抗生物質
- ・2012/12 全顎抜歯
- ・2012/12-2013/3 状態良好
- ・2013/3 ステロイドの脱却を試みるも、ステロイド+抗生物質に戻る繰り返し
- ・2015/6-9 メタカムPOにより一時的に改善
- ・2015/9- インターベリーα再開。改善認めるものの投与間隔をあけると悪化
- ・2015/12 オーナーより「投薬を続けることが困難」「血液の混入した流涎」に関して相談。インフォームしていたADSC療法を希望。

①尾側口内炎(齒肉口内炎)(猫)



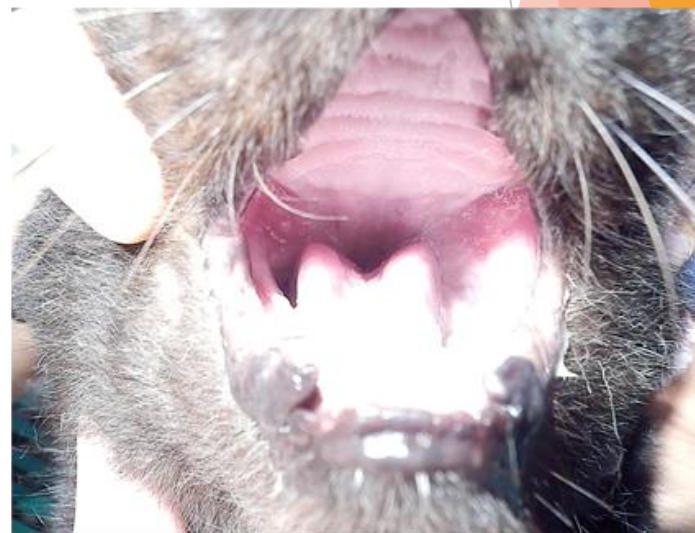
齒科処置時



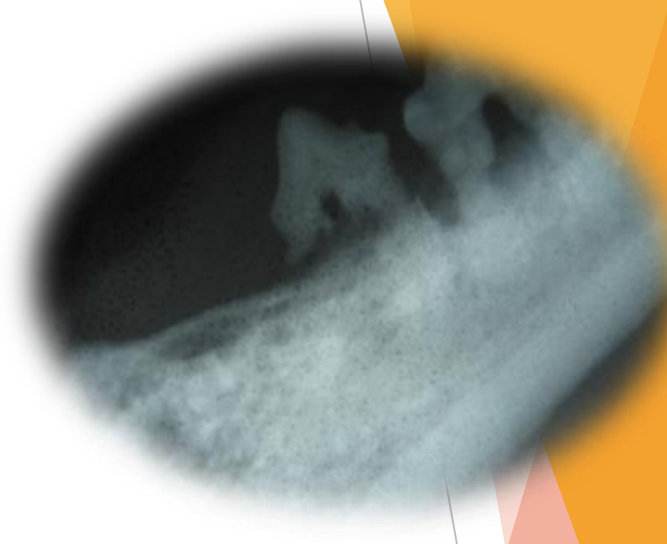
齒科拔牙時



齒科処置後



ADSC投与開始後(16回目投与时)



①尾側口内炎(歯肉口内炎)(猫)

	食欲	開口時の痛み	流涎	出血	歯肉炎	口峽部の炎症	口臭
歯科処置前	-	+	+	+	+	+++	+
歯科処置後	+	+	+	- → +	-	++	-
ADSC投与前	+	+	+	- → +	-	++	-
ADSC投与開始後	+	+ → -	-	-	-	+	-

※ADSC投与開始後評価は、ADSC16回目投与時に行った。

獣医師コメント

- ・既存療法では維持できない猫の尾側口内炎(歯肉口内炎)に対して、他家ADSC療法の有効性が示唆された。
- ・現段階では完治には至っていないため今後も治療を継続し確認していく。

オーナーコメント

- ・涎がなくなった(寝床につく血液混じりの涎がなくなった。粘稠度の高い涎がなくなった)
- ・投薬にかかる精神的負担が軽減された。

②化膿性、潰瘍性、リンパ球形質細胞性口内炎(犬)

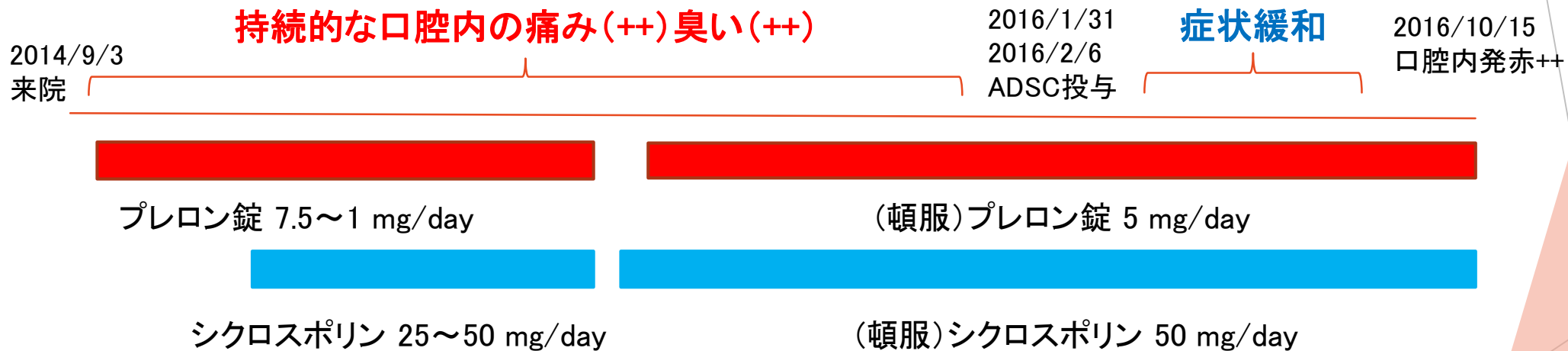
症例:スコティッシュテリア 3歳 ♂

症状:口腔内炎症による痛み、口臭。食欲減退。

診断:化膿性、潰瘍性、リンパ球形質細胞性口内炎(病理診断)

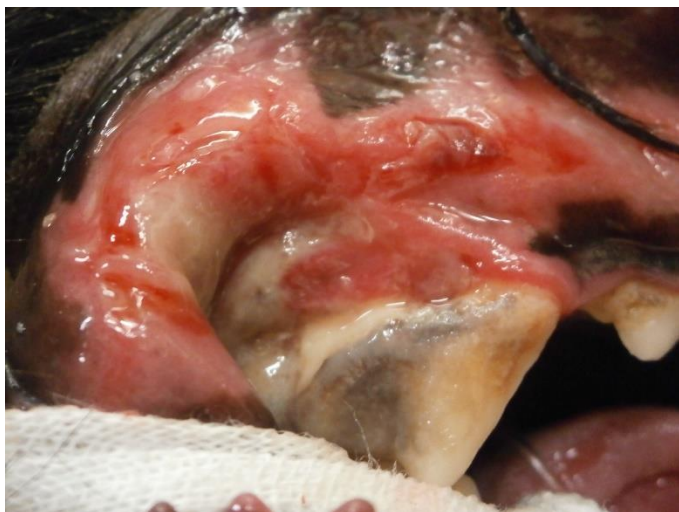
治療:プレドニゾン、シクロスポリン等

他家ADSC療法(1.0×10^6 個/kg) IV、2回投与



②化膿性、潰瘍性、リンパ球形質細胞性口内炎(犬)

2014/9/14(ADSC治療前)



ADSC治療前後での評価

	食欲	開口時の痛み	流涎	出血	歯肉炎	口頬部炎症	口臭
歯科処置前	+	+++	+	±	+++	+++	+++
歯科処置後	++	++	+	-	++	+++	++
ADSC投与前	++	+++	++	±	+++	+++	+++
ADSC投与開始後	+++	+++	+	-	++	++	+

②化膿性、潰瘍性、リンパ球形質細胞性口内炎（犬）

獣医師コメント

- ・リンパ球形質細胞性口内炎に対する根治治療は確立していない。
- ・本症例はプレドニゾンや免疫抑制剤に対する反応に乏しく、減薬や休薬を期待しADSC療法を提案、オーナーからの同意を得た。
- ・ADSC療法後、一時的に口腔内の状態は改善した。
- ・2016年10月現在、再発しており今後は再度ADSC療法を試みるか検討中である。